

「one team」と「hundreds personality」

幼少期には、祖母と一緒にラグビーを応援していた。特にお正月の花園。最初は意味が分からなかったが、おそらく10歳ぐらいにルールがわかった。でも、どうして自分でトライせずにあんなにパスをするのだろうか？と思い祖母に質問をした記憶がある。すると祖母は、「今はわからないかもしれないけど、きっとわかる日が来る。人生の全ての教訓がゲーム前、ゲーム中、そしてゲーム後にあるから。」幼い私には到底わからなかった。

ずっとスポーツとして観戦をしていた私はそんなことは忘れていたが、豪のパス在住中の2006年にたまたま合宿をしていたラグビー全日本チームの方々と出会った。そして、西オーストラリア州立大学の学生チームとの練習試合に行くと、130点以上取得した学生チームに対し、全日本チームはなんと！0点だった。実力の差に驚いたが、もっと驚かされたのは、そんなに点差があったにもかかわらず、相手チームの学生さんとプロの日本チームとの健闘を分かち合っている姿だった。学生さんはおごることなく、日本チームは落ち込むことなくその姿がとてすがすがしかったことが驚いた。そこから「なんでだろう？」とラグビーについて夢中に調べはじめ、その歴史やジェントルマンシップを知ることができ、また、本当に勉強嫌いな私は、目の前で疑問に思ったことにしか没頭できない人間なんだと、自分を見つめ直す機会となった。

昨年には、ワールドカップが開催され豪の友人もたくさん来日し、運よくあのアイルランド戦を、観客席で見る機会があったが、到底勝てるとは思っていなかったので心底驚いた。そしてその時に初めて祖母の言った意味が少しだけわかった気がした。

自分ではなくチームの力、自分を犠牲にして、身を呈してゴールを目指す組織的な動き etc
そして、最後のインタビューではアイルランドに勝ったうれしさより、台風の被害を受けられた方へのお見舞いを言える。すごいですね。まさにジェントルマンです。そして、一人じゃ何もできない。皆と一緒に、自分の役割をしっかりと自覚、徹底しそれに集中し、成し遂げる喜びを知る。まさにこれ人生、と思い入った。

さて、これからの不透明な時代。2020年は2050年に振り返った時に大きく変化した年として振り返るだろうと言われています。そして、日本もますます多様性の受け入れが必要であると言われて久しいですね。

園にいるお子様方159名はそれぞれに159の個性を持っています。先生方17名もそれぞれに17の個性があります。そして、お母さま159名もそれぞれにmotherhoodの個性も違います。先生方は毎日、それぞれのお子様の個性を大切に心がけ保育にあたっています。そして、私もお母さま方や先生方159名と17名の個性を大切に心がけ運営にあたっています。その日々は、先生方や私にとりましてはまさに「学び」の日々です。自分が育ってきた環境だけを物差しにしてしまうとその多様性を受け入れることができませんから、「受容」がイコール「学び」であると考えています。まさにインプットです。そうして多様性が受け入れられるようになれば、2050年になった時には、世の中の流れについていけるといいなあと思いを巡らせます。（何歳になっているのでしょうか？）

いかがですか？お子様を受容できていますか？受容の範囲は、この園で様々な人や事象により広がりましたか？お子様方は、100000倍？ぐらい広がったのではないのでしょうか？ずっと寝たまま天井や空を見あげ、おっぱいを飲んで、おむつを替えてもらい、時々目の前に現れる、泣くと現れるお家の方々だけだったのが、なんと、20人以上のお友達、150人以上の仲間、そして18人の大人（先生方）そして、ぶつかって受容できなかった人や事象にも、しっかりと理由付けを理解し、どうしてそうなのかを自分で考えられるようになり、、、。そう考えていくと、本当によくご成長なされたなど感じ入りますし、personalityはとても大切だと強く思います。

それと同時に、そのpersonalityがone teamとなつて、大きな力となり、挑戦したり頑張っていることの成功体験をし、one teamの大切さとpersonalityの肯定感を知ってもらいたいと願っています。それを考えさせてくれたラグビーって、すごい！やはり人生全ての教訓なのかしら？